

クラス	TU306	担当教員	小坂 啓史
テーマ	人と人との関係と社会とのつながり ～ 社会学的想像力を身につけよう		
著書・論文	<近年の研究課題> : エスノメソドロジー的方法に基づく映像分析 ◆ 「エイジズム」(藤村正之編『いのちとライフコースの社会学』弘文堂、2011年) ◆ 「介護保険制度下のケアマネジメントとレリヴァンス」(『現代と文化』第127号、2013年)		
研究課題等	◆ 「ケアの場における相互行為を分析するために—エスノメソドロジーの応用可能性に関する考察—」 (『日本福祉大学 子ども発達学論集』第6号、2014年)		
ゼミナール概要			
キーワード:			
《内容・方法について》			
(1) 社会学的想像力を身につけよう			
<p>第一に、このゼミでは「社会学的想像力」(C. W. ミルズ) というものを身につけていくことを目的とします。「社会学的想像力」とは、時代や社会の大きな動きと、私たちの身近なふるまいや人間関係、日常生活などがどのように結びついているのかについて想像し考えていくことです。こうした見方は、現代ではとくに重要なものになってきていると考えられます。「社会問題」と私たち自身の個人的な悩み、社会のしくみと私たちが抱く「生き難さ」といったものが、常に関わっているのだという視点を常にもつこと。それは「他者」と関わって生きている私たち自身の人生を考えると、そして、その方向を考えていくときに、深く関わることだからです。</p>			
(2) 「社会」とは? 「生活」とは?			
<p>第二に、社会学における社会の見かたについて考えていきましょう。社会学では社会に対して、さまざまなとらえ方があります。まずはこれらの基礎についてみていき、その上で現代のさまざまな社会問題、社会現象を、さらにはみなさん自身の体験などについてもあてはめて、考えていきましょう。</p>			
(3) 社会学的研究方法を学ぼう			
<p>第三に、社会学的方法論について学んでいきます。卒論などで、みなさん各自の問題関心、研究テーマを追求していくとき、それをどのように研究したらよいか、ということについて理解していることが大事です。実は、研究方法にはさまざまなスタイルがあります。これらについて理解し、自分のテーマに合った方法を用いることができるようにしていきましょう。</p>			
《方法・授業計画》			
<p>進め方は基本的にゼミナール形式です。共通の文献や論文を取り上げて、報告と話し合いをしていきます。そして、3年生(あるいは4年生)の夏休み期間に、関東の他大学のゼミと共同で開催する合同ゼミ合宿に参加する予定です(変更可能性あり)。また、社会福祉施設等における介助・レクリエーション活動への参加も行う可能性があります(これらに参加することを予め念頭に置いて、志望してください)。</p>			
担当教員からのメッセージ			
<p>3年生では、まずは社会学的な専門知識を増やし、それによって社会のさまざまな見方、捉え方を身につけましょう。その際、実感を伴って考えていけるかが重要なカギになります。これをふまえて、ゆくゆくは卒論につながる、自分自身の研究テーマについて考えていきましょう。4年生では、3年生時から準備し、進めてきた研究の成果を出していくことが重要です。大学生としての総仕上げとして、自分のテーマに基づき、卒業論文に取り組みます。</p> <p>ゼミでは禁句があります。それは、「わかりません」「同じです」という意見(?)です(これらのバリエーションも)。わからないことがあれば、問題提起をしてみんなで話し合っただけでいいですし、また、意見が他の人と同じでも、きちんと自分の言葉で述べるのが大事です。また、その際に気をつけてほしいのですが、意見を単純化させすぎることあまりよくありません(→「～にすぎない」など)。社会で起こる現象の原因などについては、一言で答えられるほど単純なものではありません。また、この意味での単純化は「シニカルさ」につながり、結局何も考えていないことにつながってしまう恐れさえあります。</p> <p>それから最後に…わからないことや知らないことがあるのは、別に恥ずかしいことではありません! 集中しつつもリラックスし、ゼミに臨んでください。そのための環境作りには十二分に配慮していくつもりです。</p>			